

# みのわ未来委員会（第1回）会議要録

日 時：平成27年4月30日15時～16時30分

会 場：箕輪町役場 2階 大会議室

参 加 者：みのわ未来委員会委員（欠席者無し）井上信宏アドバイザー  
町長・副町長・事務局（企画振興課）

傍聴人数：5人

報道機関：みのわ新聞・長野日報・信濃毎日新聞・伊那ケーブルテレビ

## 1. 開会

## 2. 委嘱状交付

## 3. 町長あいさつ

- みのわ未来委員会（以下「委員会」という。）は、1年をかけて、第5次振興計画と、地方創生に関わる人口ビジョン、地方版総合戦略を作る。
- 委員会では、第4次振興計画策定から10年を経過した今、「できたこと、できないこと」を改めて明確にし、今後何をしていかななくてはいけないのかを考えていく。
- 町の人口も減少が進んでおり、2040年までには今より4,000人少ない22,000人程度になると推計されている。何としても25,000人台をキープしたい。
- 人口が減少し、町税収入も減少する今後は、事業を取捨選択し絞り込むことが必要。それが自治体としての色や差になってくる。
- 振興計画の策定にあたっては、できるだけ多くの町民の皆さんから意見を聴くため、町内15区にそれぞれ出向き、意見交換する懇談会を開催している。
- 計画は、町民の皆さんと一緒に作ることで、他の自治体と同じようなものではなく、箕輪町として頑張れる計画にしていきたい。

## 4. 自己紹介

※委員、アドバイザー、副町長、事務局自己紹介

## 5. 会長及び副会長の選出

※唐澤委員から会長、副会長について推薦があり全体異議なし。（拍手により確認）

会 長 浦野正敏委員 副会長 有賀ひとみ委員

会長挨拶)

○5年、10年先の町の在り方を考えるという重い委員会だが、このメンバーなら良い答えが出せると思う。

副会長挨拶)

○作るビジョンについて、実現可能なのか、解決可能なのか、またマイナスとして受け入れなければならない課題なのか、そういう物もひっくるめて考え、夢で終わらないまちづくりをしたい。

町全体を見る風景、改めて素晴らしいと思う。まずは、町の皆さんに、町の景色・生活を知ってもらうことが第一歩だと思う。

## 6. 議事

### (1) みのわ未来委員会の任務、組織について

※資料をもとに事務局より説明。

唐澤委員)

○この本会は、絞り込まれた具体的なテーマを持って取り組んでいけば良いということ  
で良いか。

→個別分野については専門部会で議論をするので、本会では基本的な構想や、何を主軸  
に取り組まなければいけないか、何を未来に向けて発信していかなくてはいけないか  
を主に議論してほしい。

唐澤委員)

○人口減少問題についてもこの本会でやっていくということで良いか。

→その通り。人口については次回以降データを示しながら議論お願いしていく。

### (2) 専門部会の設置(案)について

※資料をもとに事務局より説明。

唐澤委員)

○「明日を担う地域人材育成部会」は子どもの教育を中心とした部会か。大人の人材育  
成は。まちづくりのキーポイントは「人」であるが、それらの育成はどこに含まれて  
いるか。

→主たるものは子どもへの教育になるが、生涯学習も含まれているので幅広い人材育成  
についても議論する部会である必要があると思う。

→資料には基本的な部分だけ書いてあるので、抜け落ちている部分は随時追加し議論し  
ていく必要はある。

柴委員)

○本会の委員が入る専門部会については、希望を訊いてくれるか。

→本会の委員が入る専門部会については、次回の議題とする。会長、学識経験者以外の委員は、一人ひとつは専門部会に参加してほしい。

小池委員)

○国が進める地方創生の説明がわかりづらい。もう少し細かく説明してほしい。

→随時説明する。

(3) スケジュールについて

※資料をもとに事務局より説明。

※「次回だけでなく数回先まで決めたい」、「週・曜日固定で決めたい」、という意見や、開催時間について複数意見。

## 7. 説明事項

(1) 町の現状について

※資料をもとに事務局より説明。

※質疑なし

(2) 住民満足度調査の結果について

※資料をもとに事務局より説明。

※質疑なし

## 8. その他

<次回開催日時> 5月21日(木) 午後1時~3時

<学識経験者・アドバイザーコメント>

和田委員)

○第4次振興計画の基本理念に「3万人規模でないとできない諸施策を実施する」と書いてある。3万人規模でないとできない諸施策として何を実施してどうだったかという評価を次回以降やって欲しい。それが箕輪町らしい計画作りにつながっていくと思う。

馬場委員)

○専門部会(案)について、他の専門部会と重なり合う部分が大切だと思う。あまり枠を決めすぎ、縦割りになると大事な議論ができない。

吉村委員)

○団体と意見交換をしていくということなので、八十二銀行箕輪支店内で作ったプロジェクトチームと是非意見交換をさせてほしい。何か提案できれば。

原委員)

○連合には町内に拠点を置く企業も多く参加しているため、「産業の未来を考える」部会での、雇用、勤労者対策、商工業、農林業の振興といった課題や、「ファミリー応援」部会での、ワークライフバランス、仕事と家庭の両立、子育てをしながら働ける環境づくりという課題にも協力していきたい。

井上アドバイザー)

※以下3点について。

①専門部会構成の縦割りを越えたところに課題が見える。全て部会の議論を公開して共有していくことが大切。

②地方創生の議論は、箕輪町の課題を分析、論点を明確にし、きめ細かく検討していくことが必要。

例) 人口減少と少子化は同じ問題ではないことに配慮して考える。必然的に起こる人口減少が課題なのではなくて、生まれる子どもが少なく少子化が進むことが課題だと分析し、それを解決するための施策を行っていく等。

③目指す議論のゴールに、時間の考え方を入れることが必要。10年後のゴールの話なのか、30年後、40年後のゴールの話なのか考えて議論し施策を考えていく。

例) 「未来」は、遠い未来なら子どもたちに対する政策の議論。近い未来なら20、30代の育成に係る政策の議論等。

## 9. 開会